



羅針盤

発行:サイクルズ株式会社
編集:サイクルズ株式会社 大森オフィス
東京都品川区南大井6-26-3
大森ベルポートD館 8F
電話: 03-6410-8797
URL: <https://www.cyclers.co.jp/>

Topics

ISOとJISの整合

今回は、マネジメントシステムでお馴染みのISOとJISのお話です。
まずはISOについてです。

ISO (International Organization for Standardization / 国際標準化機構) は、国際的に共通して使える規格 (国際規格) を策定する非政府組織で、本部はスイス・ジュネーブにあり、加盟国が約170か国、国や地域が異なっても、製品・サービスの品質、安全性、互換性を確保することを目的として1947年に設立しました。

国際規格としてはISOの他にもIEC規格 (国際電気標準会議: 電気・電子・通信分野の技術分野)、ITU (国際電気通信連合: 電気通信分野) があります。

代表的なISOマネジメント規格としては、

- ・ISO 9001: 品質マネジメントシステム
 - ・ISO 14001: 環境マネジメントシステム
 - ・ISO 27001: 情報セキュリティマネジメント
 - ・ISO 45001: 労働安全衛生マネジメントシステム
- などが挙げられます。

次にJISについてです。

JIS (Japanese Industrial Standards / 日本産業規格) は、産業標準化法に基づき、認定標準作成機関の申し出又は日本産業標準調査会 (JISC) の答申を受けて、主務大臣が制定する日本国内で使用される国家規格で日本の国家標準の一つです。

JISの国際規格との整合性

日本は1995年に発効した「貿易の技術的障害に関する協定」により、ISO及びIECに準ずることが定められました。本協定に依れば、全てのJISは前述の国際規格に準じた内容とする必要がありますが、各国特有の地域性や商習慣による変更は許容されます。実際には、機械的に同時にすべてのJIS規格を国際規格に適合させることは困難であるため、規格内容の見直し等のタイミングでJIS規格の国際規格適合のための改訂が実施されております。

ISO等の国際規格番号とJIS規格番号

ISO規格番号は、「ISO」+番号+発行年 (例: ISO 9001:2015) で構成されます。

日本の国内規格として採用される際は「JIS Q 9001」のように、JIS規格番号としても管理されます。JISのつぎのローマ字1文字は部門記号と呼ばれ、JISの20の部門の内の一つを表します。その内「Q」は管理システムを表しますので、JIS Q はマネジメントシステム規格の一つを表します。他の19部門については[JIS部門一覧 | 日本規格協会](#)をご参照ください。

部門記号に続く数字は、各部門で一意的な番号です。かつて、番号はもっぱら4桁でしたが、現在、国際規格と一致または対応するJISについては、国際規格の番号とJISの番号を同じにしておくことが便利であるので、国際規格が5桁の番号を持つ場合には、それに合わせた5桁の番号が用いられるようになっております。ISO/IEC 27001を翻訳したJIS Q 27001「情報セキュリティマネジメントシステム-要求事項」はその例です。

【まとめ】

ISO等の国際規格は世界共通のルールで、JIS規格は日本独自のルールですが、ISO規格をそのまま、または一部調整してJIS化という形で、ISOとJISは規格番号の整合性を取る方向で進んでおります。

Cyclers Topics !

モーダルシフトで、CO2削減にも貢献。三立処理工業の広域運搬

液状産業廃棄物を取り扱う三立処理工業には、モーダルシフトに対応する2つの積替保管施設があります。白石事業所では高塩素の廃棄物、PFOS含有廃棄物、その他各種の特殊な廃棄物をJR貨物便にて中国/九州地方の処分場に出荷しています。また水江事業所では、海上バージ設備を保有し、処分業者及び積替保管業者と共に共同運営で、廃酸、廃アルカリなどの廃液を船舶で九州の処分場に出荷しています。鉄道・船舶輸送は、トラック輸送と比較し、一度に大量の廃棄物の長距離輸送を可能にし、CO2の発生を軽減することができます。その他にも、ドライバー不足への対応、交通渋滞や事故リスクを低減する手法でもあり、三立処理工業は、今後もモーダルシフトを活用した輸送を推進してまいります。



Series

人生の一里塚 (その1)



東港金属 営業部 管理課
茂木 小百合

皆さん初めまして。営業部管理課 千葉事務チームの茂木と申します。

東港金属に入社して早いもので12年が経ちました。今まではこの羅針盤を読者として毎回楽しみにしていましたが、ついに...担当させていただきますことになりました。こんな日が来るとは.....

普段自分のことについて話をするのがあまり得意ではないのですが、せっかくの機会ですので、「私の人生に大きな影響をもたらしてくれた人や出来事」のことも交えつつお話していきたいと思います。拙い文章ですが、しばしお付き合いいただけますと幸いです。

まずは私の中でとても大きな存在である祖父とのお話します。

祖父は大正12年、関東大震災の年に農家に誕生。第二次世界大戦の時には志願兵として兵役、航空母艦『翔鶴』に乗船し、真珠湾攻撃などを経験しました。その後、理由あって下船したそうなのですが、もしそのまま乗船していたとすれば...私は存在しなかった。ということになります。



空母翔鶴のイメージ図

戦争というものを経験することなく生きてきた私からは想像もつかない壮絶な経験をしてきたであろう祖父ですが、孫から見ると祖父は、冗談が好きで、よく話す、よく笑うおじいちゃんでした。そして農業の傍ら、孫である私たちの世話をよくしてくれました。

幼稚園や学校から帰ったらおせんべいを持って、祖父と2人自転車で行き、海辺を散歩しておせんべいを食べるのが日課でした。

祖父が畑作業をするときは連れて行ってもらい、少し手伝いをし

祖父 (右上) 入隊時の写真

1939 (昭和14) 年頃?

て...飽きたら畑作業をする祖父のまわりで遊んで過ごしました。火燃し(ひーもし; 焚火のこと)をしながら焼き芋を作ったり、近所の小川で亀やどじょうを捕まえたり。猟もしておりましたので、飼っていた猟犬たちの散歩や、餌づくり、猟の時に行方不明になった犬の捜索に行ったりもしました。(よく行方不明になるのです。)

このように、これと言って特別なことがあるわけではない平凡な穏やかな毎日を過ごしてきた。と思っていたのですが、実はその『毎日』の中の端々に祖父のぶれない『芯』みたいなものが確かに有り、その『毎日』の中から学ばせてもらったことがたくさんあった。ということに大人になってから気がつきはじめました。

もう少し詳しくお話ししたいところですが、紙面がいっぱいになってしまったので、続きはまた次回に。お付き合いありがとうございました。